

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和5年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動(高等部)
重点課題	学習に意欲的に取り組むための体づくり
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒は入院生活を送ることで生活リズムを整えているため、家庭で週末を過ごす際に規則正しく生活習慣を整えることが難しい場合もあり、週明けに体調不良を訴える様子が見られる。 ○ 通学距離が短く、入院生活で行動範囲が限られていることなどから課業以外の運動量が極端に少なく、肥満度20%以上の生徒が全体の60%以上で、高度肥満の生徒もいる。 ○ 様々な体の動かし方を経験して動作を習得したり、心肺機能を高めたりする時期に運動をしてこなかったため、体の動きがぎこちなかったり、持久力が乏しかったりする。 ○ 運動経験が少なく、苦手意識があるため、健康や運動に対する意識が乏しい。
達成目標	○ 新体力テストの数値の向上（60%以上）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業における取組:体育で体力トレーニングを実施したり、自立活動等でランポリンやバランスディスクを活用し、バランス感覚を養ったりする。 ○ 学部における取組:各自が歩数計を携帯し、朝の健康観察時に歩いた数値を入力してグラフ化する等、視覚化したものを学部全体で共有できるようにする。「～まで歩こう!」と目標達成に向けて意欲的に運動量を増やせるよう取り組む。 ○ 新体力テストを5月と11月に実施し、数値の比較を行う。

令和5年度 富山県立ふるさと支援学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	進路支援
重点課題	働くことに対する意識の向上を目指した取組
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学部、高等部生徒の大半が、不登校傾向や集団参加に対するの苦手意識があり、教師とは話ができて同年代の生徒との関わりには消極的である。転出や卒業後の新しい環境下に適応が難しい生徒も少なくない。 ○ 具体的な進路目標の決定が遅い生徒や将来やりたいことが描けない生徒がいる。また、具体的な目標が定まっても自主的、意欲的に学習に取り組めていない生徒も見られる。 ○ 生徒全体が集団生活の中で養われるべき気付きや人との関わり方が未熟なため、他者の考えに目を向ける経験が少なく、自己理解が不十分である。 ○ 授業中に自分で優先順位をつけることや目的を考えて行動する場面が少ないため、自分で考えて動く習慣が身に付いていない。 ○ 生徒一人一人の将来の生活とのつながりを考えた各教科内の指導が有効とはいえない。生徒に適した進路支援を考えて日々の教育活動を行えるように教員間の生徒の情報共有や働きかけが必要である。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことについて考える週間を設ける。（年間2回） ○ 生徒と教員を対象とした進路に関する研修会を行う。（年間4回以上）
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路・教育相談部が中心となって、生徒が働くことについて考える週間（ワーキングウィーク）を設ける。 ○ 中学部と高等部の進路に関する学習内容を記録し、整理する。 ○ アビリンピック競技内容を参考にして、いろいろな仕事内容に取り組みさせる。 ○ 外部講師から就労に関する知識や技術を学ぶ機会を設ける。